



MINISTÈRE
DE L'ÉDUCATION
NATIONALE, DE
L'ENSEIGNEMENT
SUPÉRIEUR ET DE
LA RECHERCHE

EAE JAP 4

SESSION 2015

AGRÉGATION CONCOURS EXTERNE

**Section : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES
LANGUE ET CULTURE JAPONAISES**

VERSION SUIVIE D'UN COMMENTAIRE GRAMMATICAL

Durée : 6 heures

Documents autorisés : Dictionnaire Kōji-en, Iwanami, 1983, et rééditions; Dictionnaire Taishūkan kango shinjiten, Taishūkan, 2001, et rééditions.

L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel électronique (y compris la calculatrice) est rigoureusement interdit.

Dans le cas où un(e) candidat(e) repère ce qui lui semble être une erreur d'énoncé, il (elle) le signale très lisiblement sur sa copie, propose la correction et poursuit l'épreuve en conséquence.

De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, il vous est demandé de la (ou les) mentionner explicitement.

NB : La copie que vous rendrez ne devra, conformément au principe d'anonymat, comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé comporte notamment la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de signer ou de l'identifier.

Tournez la page S.V.P.

A

筆者には苦い経験がある。財務省のお工委の方々を前に、「子どもの貧困」についての講演をさせていただく機会があった。私は切々と、いかに子どもの貧困が広がつており、いかに貧困の子どもがたいへんな状況にあるかを訴えた。しかし、私の長い訴えをじつと聞いていた人の官僚に言われたのである。

「阿部さん、わかりました。では、何をすればよいのですか。具体的に、どのような政策を打てば子どもの貧困は解決するのですか。それがわかれれば、私たちだってお金をつけてよ」

その時、言葉が出なかつた。それが今でも悔しくてたまらない。私がこの本を書く情熱の源は、この時の悔しさにある。

残念ながら、五年たつた今でもその問い合わせに対する決定的な答えはない。ああ、その答えがあつて、ただ紙に書けばすむのであれば、どんなによいだろう。しかし、社会問題の多くがそうであるように、一目瞭然の解決法が存在するわけではない。子どもの貧困に対して、具体的にどのような政策を打つていいかという問い合わせに対する、私を含め、「霞が関」も、社会学者、教育学者、経済学者といった「有識者」も、決定打となる答えを示せていないのである。

1) Traduire en français le texte ci-après (extrait de 阿部彩『子どもの貧困 II』岩波新書 2014年)

2) Faire l'analyse logique, sous la forme de schémas détaillés en français, des phrases suivantes :

「たとえ日本国民が全員一致で「子どもの貧困対策に全力を注ぐ」と判断したところで、いったい、どのような政策をとれば、子どもの貧困が削減できるのか、実は、その明確な「解決法」がわかつていないのである。現代の貧困は、複雑で、多面的である。ただ単に、子どものお腹を満たし、服を着せ、義務教育までの学校に行かせることだけでは、今の日本の貧困が解決しないことは、誰の目にも明らかである。」

「子どもを大切にしなければいけない」「貧困の連鎖は食い止めなければならない」。このような理念に反対する者は誰もいない。理念を唱えている段階では、対立は起こらない。対立が起こるのは、子どもの貧困対策にどれほど本気で取り組むのか、平たくいえば、国の予算の半分が借金で賄われており、他にもお金が必要な政策課題が多くあるなかで、どれほど優先的にこの問題に取り組むのかを決定する時である。「子どもの貧困対策は将来への投資だ。何よりも優先されるべきだ」と訴える人から、「そうはいつても、昔に比べれば子どもは良い暮らしをしているし、それほど大きい問題ではないだろう」「景気さえ回復すれば、何とかなるであろう」と感じている人まで、世の人々のこの問題に関する温度差は大きい。これをどう調整していくのかが、今後、法の実効性を決定する。

政策オプションは何か

必要なのは、子どもの貧困問題に取り組む「決意」だけではない。たとえ日本国民が全員一致で「子どもの貧困対策に全力を注ぐ」と判断したところで、いったい、どのような政策をとれば、子どもの貧困が削減できるのか、実は、その明確な「解決法」がわかつていないのである。現代の貧困は、複雑で、多面的である。ただ単に、子どものお腹を満たし、服を着せ、義務教育までの学校に行かせることだけでは、今の日本の貧困が解決しないことは、誰の目にも明らかである。しかしながら、その先に、どのような支援が必要であるのか、「貧困の連鎖」を断ち切る具体的な支援の道筋が明確ではないのである。

一人も「落ちこぼれ」がないような教育にするためには、何が必要なのか。教員の増員か、カリキュラムの整備か。小学校入学の段階で学力に遅れがあり、勉強することに対しても意欲が見いだせない子どものモチベーションを回復するにはどうすればよいのか。両親とともに不安定就労で、常に経済的ストレスにさらされており、安心して暮らせる家庭環境がない子どもには、どのような支援があるか。母子家庭で母親が深夜まで働いており、寂しくて繁華街をふらつく子どものためには何ができるか。家計の支援をする現金給付と保育サービスや相談事業などの現物(サービス)給付のどちらが子どものためになるのか。誰もが同じように恩恵を受けることができる普遍的な制度がよいのか、貧困の世帯のみに対象を絞った制度がよいのか。子どもの医療か、教育か、食事・栄養か。

課題は山積みであるものの、何から手をつければいいのか。プライオリティの高い政策はどれか、何歳までの子どもを対象とするのか。どのような政策が費用対効果が高いのか。